



# リビング建材 床材(捨て張り工法)施工上のお願い

※本製品は木造合板捨て張り下地専用です。根太組みへの直接施工、コンクリート下地への直接施工はできません。  
●不具合の原因となりますので下記事項を遵守してください。

## 施工前のお願い

- 施工前に各部材を必ず検品してください。製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買い上げ店までご連絡ください。施工後の色調不具合・キズなどによる交換は、お受けできませんのでご了承ください。
- 開梱状態で水がかかったり、直射日光のあたる場所に置かないでください。(ソリ・ねじれなどの原因になります。)
- 本製品は、屋内用です。土足で使用する場所や水がかかったり、極端に湿度が高い所には使用できません。濡れた場合は、すぐに乾いた布でふき取り、乾燥させてから養生してください。(基材のフクレや化粧単板のワレ・シミの原因となります。)
- 床暖房には使用できません。
- 本製品は突板を使用しており、天然木特有の微妙な色柄が持ち味となっています。取付け前に必ず仮並べして色柄を組み合わせてください。
- 張り合わせは3尺ずらしのレンガ張りをおすすめします。
- 床材には防虫処理をしていません。必要に応じて駆体、木部および床材に防虫処理をしてください。虫による食害のおそれがあります。

## 施工上のお願い

### 1 下地について

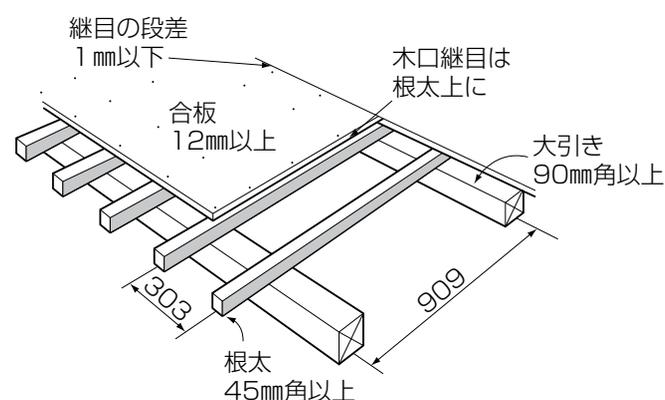
#### 【在来工法(合板捨て張り)の場合】【図1-①】

- 大引きは90mm角以上で間隔は909mm以下、根太は45mm角以上で間隔は303mmとし、含水率15%以下の乾燥したものをお使いください。
- 合板の場合は、厚み12mm以上で、含水率は14%以下のものを使用し、パーティクルボードの場合は、厚み15mm以上で、含水率13%以下のものを使用し、水平で段差のないように施工してください。(段差は1mm以内としてください。)
- 大引き、根太および合板には接着剤を塗布し、ビス等で固定してください。
- 下地材が濡れていたり、含水率が高い状態で床を施工しないでください。水分が床材に移行して突き上げなど不具合の原因になります。
- 捨て張りの継ぎ手は合板で2mm、パーティクルボードで4mmを目安としてすき間をあけてください。(突き合わせにすると踏み鳴りの原因になります。)

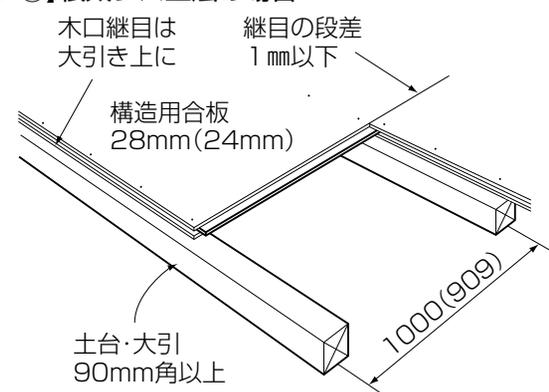
#### 【根太レス工法(構造用合板捨て張り)の場合】【図1-②】

- 大引きのピッチが尺モジュール(909mm)の場合は厚み24mm以上、メートルモジュール(1000mm)の場合は厚み28mm以上の構造用合板を使用してください。
- 含水率は14%以下のものを使用し、水平で段差のないように施工してください。(段差は1mm以内としてください。)
- 大引きおよび合板には接着剤を塗布し、ビス等で固定してください。
- 下地合板が濡れていたり、含水率が高い状態で床を施工しないでください。水分が床材に移行して突き上げなど不具合の原因になります。

【図1-①】在来工法の場合



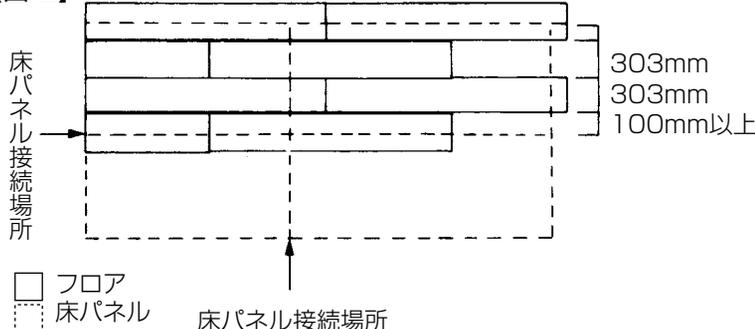
【図1-②】根太レス工法の場合



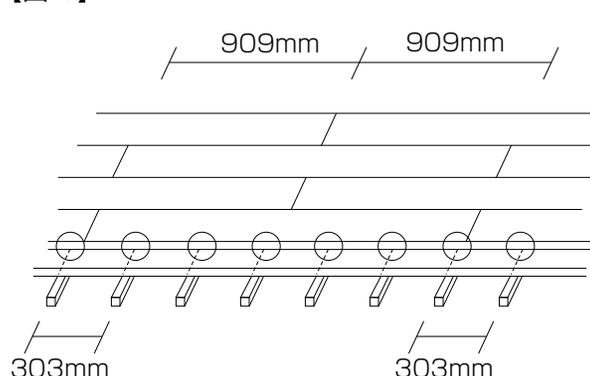
### 2 床の固定

- 床材と捨て張り材の継ぎ目は同位置にならないよう、縦・横とも100mm以上ずらししてください。段差の発生や床鳴りの原因になります。
- 1列目に張るフロアは、床パネルとフロアジョイント部分が重ならないように予めカットして施工してください。【図-2参照】
- 施工時に、きつくはめ込みすぎないようにご注意ください。(床材は湿度の影響により伸び縮みします。伸縮量は1820mmの長さで約2~3mm程度です。きつくはめ込みすぎると突き上げの原因になります。)

【図-2】



【図-3】

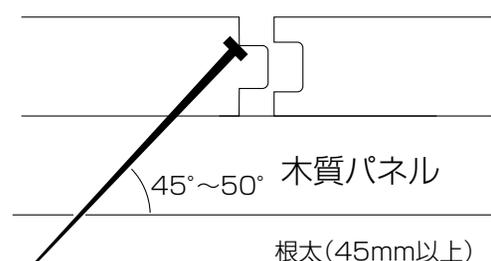


# 捨て張り工法用施工説明書

## 施工上のお願い つづき

- 必ずフローア専用スクリー釘(38mm長さ)を使用し、303mm間隔で固定してください。(在来工法の場合は根太位置を狙って打込んでください。)フィニッシュネイルやステープルは使用しないでください。(サネ割れや固定強度低下となります。)
- 踏み鳴り、浮き上がりを防ぐため、接着剤を塗布し、フローア専用スクリー釘(38mm長さ)で固定してください。
- 接着剤は、別売りの床施工用接着剤(LZZZZ036)をご使用ください。
- 釘頭によるフクレが表面に出ないようにするために、釘を打つ角度は45°~50°で打ってください。(釘打ち角度が低くならないようにしてください。)釘頭はポンチで沈め打ちしてください。【図-4参照】
- 釘頭によるフクレが表面に出ていないか確認してください。
- 接着剤は塗る個所のチリや木屑を取り除いて次に張るフロアの裏面に、線状に塗布してください。(塗布量150~200g /枚)【図-5参照】
- フローア材の寄せ、はめ込みの際には、表面やサネを傷つけないよう、必ず当て木を使用してください。段違い防止のためにもサネのたたき込み過ぎにご注意ください。
- 床材のソリや突上げを防ぐため、床材の短辺にも2本、釘打ち施工してください。

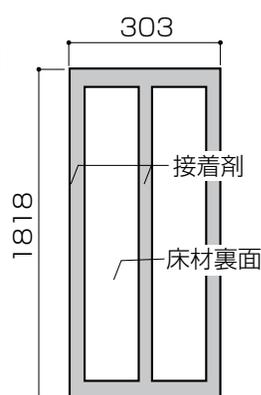
【図-4】



※フロアの雄ザネと雌ザネを合わせる時は必ず「当て木」を添えて軽く叩いてください。

※釘の頭はポンチを使って必ず雄ザネのなかに沈めてください。

【図-5】



塗布量：床材1枚当たり  
150~200g

## 施工後の養生について

- 施工後は、木くず・砂・ゴミを完全に除去し、養生シートやベニヤなどですき間なく養生してください。その際、必ず別売りの養生テープ(LZZZZ004)をご使用ください。市販のガムテープなどは粘着力が強いため、化粧材のハガレの原因となります。
- 施工中、雨の吹き込みにより、床材の表面が濡れたままになると、フクレやソリの原因になります。濡れたまま放置することはお避けください。
- ワックス掛けはされなくても耐久性は充分にあります。ワックス掛けをする場合は、木床用の樹脂系ワックス(リンレイ：ハイテクフローリングコート)をご使用ください。ご使用する際は直接床にまかずに、布などに染み込ませて薄くムラなく塗布してください。
- ワックスはく離剤は使用しないでください。基材のフクレやハガレ、変色の原因になります。